

研究課題：終末期における歯科医療の在り方に関する検討

Part II：5 大疾患に対応したオーラルケア法の開発

第 1 報 高齢者における 5 大疾患の罹患率と生命予後に関する検討

研究者名：藤本篤士¹⁾，武井典子²⁾，竹中彰治³⁾，福島正義³⁾，石井孝典²⁾，
高田康二²⁾，岩久正明⁴⁾

所 属：¹⁾医療法人溪仁会札幌西円山病院歯科診療部，

²⁾公財)ライオン歯科衛生研究所，³⁾新潟大学，⁴⁾日本歯科大学

これまで厚生労働省は「がん」「脳卒中」「急性心筋梗塞」「糖尿病」を 4 大疾患と位置づけて重点的に対策を行ってきたが，2011 年 7 月に社会保障審議会医療部会において，4 大疾患に「精神疾患」を加えて 5 大疾患とする方針を決めた。本研究は 5 大疾患に対応した終末期における歯科治療の在り方を確立することを最終的な目的にし，今回は第一段階として，高齢者の 5 大疾患のいずれかに罹患した割合（罹患率）、5 大疾患の中で複数の疾患に罹患した割合（複合罹患率）やその生命予後などを明らかにする目的で，終末期患者の多い病院の入院患者 3,562 人（男性 1,203 人，女性 2,359 人）を対象として調査検討を行った。

1) 5 大疾患の単独罹患は約半数，2 疾患罹患は 4 人に 1 人，5 大疾患に罹患していないものは約 6 人に 1 人の割合であった。この比率に男女差は見られなかった。

2) 複数疾患罹患を含む疾患罹患率を見てみると，男女ともに脳血管疾患が半数以上であった。男女比では，ガンと糖尿病の罹患率は男性がそれぞれ 1.6 倍と 1.3 倍，精神疾患は女性が 1.6 倍であった。

3) アルツハイマー病，脳血管性認知症，その他の精神疾患のいずれにおいても女性は男性と比較して罹患率が 1.6 倍であった。

4) 平成 22 年度の平均寿命（男性 79.64 歳，女性 86.39 歳）と比較すると，男性はいずれの疾患，複合罹患においても平均寿命が長かった。女性は糖尿病の複合罹患，ガンの単独罹患，複合罹患にいずれにおいても，また 5 大疾患罹患なしにおいてのみ短かったが，他はいずれも平均寿命が長かった。5 大疾患に罹患しても適切な医療・看護・介護を受けることにより，平均寿命以上の生命予後を望むことができるものと考えられた。

5) 単一疾患罹患者の生存分析により，男性，女性のいずれにおいても糖尿病と脳血管疾患の生命予後が不良で，認知症は生命予後が良好であると考えられた。

今後は，本研究で明らかにされたことを基盤として，5 大疾患のうち生命予後が不良であることが示された糖尿病や脳血管疾患患者や，男性と比較して罹患率の高い女性の精神疾患など，ハイリスク患者の口腔へのアプローチを，具体的にどのようにすべきかなどについて研究を進めていく予定である